

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	企業局 総務課	氏名	古館 諭
派遣先 団体名	NPO法人あしぶえ		

① 研修の日時・内容（概略）

平成27年9月5・6日	ゼロ弾きのゴーシュ ゲネプロ・公演観劇・表方体験
平成27年9月17～21日	八雲ミニ国際演劇祭・表方体験
平成27年9月30日	八雲小学校・コミュニケーション能力養成授業参加
平成27年11月8日	来て！見て！八雲収穫祭参加
平成27年12月11日 AM	八雲小学校演劇発表会参加
平成27年12月14日 PM	しいの実シアター落ち葉集め参加

(計 10日間)

② 研修の内容

八雲ミニ国際演劇祭(※)、八雲小学校でのコミュニケーションと演劇の表現授業、きてみて八雲収穫祭で研修を行った。

研修を通して、あしぶえの主な事業内容である、①演劇の制作と上演、②学校や企業へ向けた表現とコミュニケーションの養成のための表現授業やワークショップ、③しいの実シアターの管理運営、④八雲国際演劇祭の運営の4つの事業について、運営する側と参加する側の両面から体験できる内容だったと感じた。

※八雲ミニ国際演劇祭・・・八雲国際演劇祭(3年ごとに開催)の合間の年にも、演劇に親しんでもらおうと平成27年より開催

□ゼロ弾きのゴーシュ ゲネプロ・本番見学

ゼロ弾きのゴーシュの公演をゲネプロ(通し稽古)・本番と見学し、表方(※)の体験を行った。公演の前日にゲネプロを観劇し、その後に演出家の方から演技の指摘を受けた役者さんが次の日に本番でどういう演技をするか心配しながら見ていた。しかし、ゲネプロとは違う迫力ある演技とその雰囲気驚いた。ぜひ、今まで見たことがない方にはこの違いを体験していただきたい。

※表方・・・公演をする際の、受付(チケットもぎり)、お客様の場内・駐車場の誘導等の仕事

□八雲ミニ国際演劇祭運営

9月17日・18日は演劇祭の準備を、19日～21日まではフードショップで販売を行った。また、公演も観劇した。公演では、東京やアルゼンチンから公演に来ている方もいた。準備の際には物販・場内整理等の各担当班に分かれて問題点を整理し、班ごとに立場や年齢に関わらず、次々と改善点を出していることが印象的であった。

また、19日から21日までのフードショップでの業務では、どうやったらお客様に興味を持って

らえるか、商品を魅力的に見せるかという点について、一緒に働いているボランティアの方々(中学生・高校生・社会人)と意見を出し合い、工夫をしながら活動を行うことが出来た。

□ 八雲小学校・コミュニケーション能力養成授業参加

様々なゲームをすることで、楽しみながらコミュニケーションと表現力を向上させることが出来る授業だと感じた。(対象は小学3年生) ゲームの内容(一部)は以下のとおり

「形づくり」・・・お題(例:赤いもの、大きいものなど)を決めて、5~6人ごとのグループで話し合い、身体だけを使って形を表現し、他のグループが形が何かを当てるゲーム

「エア長縄」・・・見えない長縄(回す演技をしている)を、見えているかのようにみんなで呼吸を合わせて飛ぶ

□ 来て!見て!八雲収穫祭参加

しいの実シアター近くのかやぶき交流館で、スタンプラリー、物販、駐車場誘導の業務を行った。あいにくの雨だったが、地域の方が多く訪れた(来場者は300人程度)、

□ 八雲小学校演劇発表会見学

コミュニケーション養成授業と、演劇授業を経験した八雲小学校の生徒の発表会を見学した。2クラスの生徒がそれぞれ2つ、計4グループに分かれて、「金の斧銀の斧」(2グループ)、「アリとキリギリス」(2グループ)を上演。同じ劇であってもグループによって表現方法に違いがあり、個性が感じられる演劇だったと感じた。

また、保護者も生徒が体験したコミュニケーション能力養成授業の活動を体験する時間もあり、子どもと大人の発想の違いを感じる事が出来た。

□ しいの実シアター落ち葉集め参加

スタッフ・ボランティアでシアター周辺の落ち葉集めを行った。シアター周辺はかなり木が多いため、11月~12月にはすぐ落ち葉が溜まってしまい、管理をするのにかなりの労力を要すると感じた。

③ 研修の感想

○ NPO法人あしぶえとはどんなところかを知る

劇団の運営はどうやって行われ、そこで活動をしている方々はどんな人たちなのだろう、という疑問だらけのところから始まった研修であった。劇場を持っている劇団が珍しいこと、劇場を持つまでには様々な苦労や努力があったことも知った。また、役者さんの中には、他の仕事をしながら、限られた練習回数で公演をしている人もいることを知り驚かされた。

そして、活動を通じて地域をよくしていこうという思いが強く感じられた。研修を終えた後のふり返し会は、地域をよくするための新たな取り組みについて楽しくも真剣に話し合う場になっていた。

また、1日の終わりに開く反省会のことが印象に残っている。演者、裏方、ボランティア、研修生などといった立場に関係なく、活動の準備や運営の中で気づいた問題点などについて自由に意見を交わしていた。ここで出された課題や改善点が次の活動に生かされている。

この反省会を毎回行うことによって、課題や改善点について考える力がより鍛えられると感じた。公演等でそれぞれが即座の判断を求められる場面も多いと思うが、普段から何が課題か、どうやったら分かりやすく他の人に伝えられるか考える習慣を付けていることで、素早く対応や伝達が出来ているのではないかと思う。

私は反省会に参加してみてこのように自分の活動を顧みること、自分が感じたことを表現し、分かりやすく共有することの重要性を感じた。今後、このことを意識しながら業務をしていきたいと思う。

○地域・県外・海外とのつながりを知る

コミュニケーション能力養成授業を通じた学生や企業との関わり、収穫祭などを通じた地域の方との関わり、国際演劇祭や公演を通じた県外・海外の方の関わりと、想像していたよりもはるかにつながりが広いと感じた。それに加え、私たち県職員以外の団体からも広く研修生やインターン生の受け入れをしていた。

たくさんの方があしぶえに関わっていて、さらにそれぞれのつながりを大切にしていると感じた。私のように演劇に触れ合う経験がなかった人間にでも、分かりやすく演劇のことや業務のことについて教えてくださり、今後も自分の知らない分野に積極的に関わっていきたいと思える体験となった。

④ 最後に

忙しい中、研修の受け入れや業務の指導をしていただきましたあしぶえのみなさまをはじめ、研修を通して関わってくださいましたみなさま、本当にありがとうございました。

みなさんがそうしていらっしゃるように、私もこの研修でのつながりを大事にしたいと思います。

あしぶえホームページ：<http://www.yitf.org/>

あしぶえFacebookページ：<https://www.facebook.com/ashibue.org/>



セロ弾きのゴーシュ 公演の様子



しいの実シアター全景



しいの実シアターの舞台より



かやぶき交流館



ミニ演劇祭・フードショップの様子



ボランティアの中学生と一緒に工夫中